

違いを認め合い、尊重しあうことこそ大切

10月9日から15日まで、県内各地で開かれた「まなびピア鳥取2005」(全国生涯学習フェスティバル)にいろいろな形で参加された方も多かったと思います。

私は、人権学習バスツアーに参加する機会を得ました。昼食には新米で作られたおにぎりや漬物・果物など、地元の皆さん手作りのものをみんなでワイワイ言いながらいただきました。その中に久しぶりの「ごごろかし」がありました。「ごごろかし」は牛のツメ、ケン、スジを鍋でコトコトと煮て、ゼラチンを固めたもので、ワサビ醤油や七味とうがらし醤油につけて頂きました。ここの「ごごろかし」は普段、私たちが食べさせて頂く醤油味のものとは違った感触や味を持ったものでした。そのどちらもが、それぞれ特徴のあるものだと感じ、同じ名前の食べ物に住む場所や家庭によって作り方も、味付けの仕方も違うものが存在することにあらためて気づきました。

この頃、多文化理解という言葉をお聞きになったことがありますか。世界には歴史や伝統を持った多くのいろいろな文化が存在し、その文化に違いがあることを認



鳥取大地震によりボタ山がくずれ、宿舎などが押し潰され亡くなった朝鮮人などの供養塔(岩美町荒金鉱山跡)

め合いながら、それぞれの文化を大切に育てていくことです。

このことは人権意識でも言えることではないでしょうか。違ってのよさ、違うことの良さ、人それぞれに違いがあること、また違いがあるからこそ大切なのだと、それらをお互いに認め合い尊重していくことこそ、人権を守ることとなると思います。

発掘現場から④

門前第2遺跡の中・近世墓

今年度の調査において門前第2遺跡では、縄文時代から江戸時代にかけての様々なものが見つかっています。その中で現在調査中なのが、室町時代～江戸時代(今から五百～二百年ほど前)にかけての多くのお墓です。

この墓地の面積は約四百平方メートルで、周囲は明治時代以降につくられた田畑にかまれています。調査前は背丈ほどの笹がびっしり生えていましたが、それを取り除くと地表面には、大人が一人しゃんと持てるほどの大きな石を五～十個組んだ固まりが約百基見つかりました(写真)。これらは、お墓の上に目印として組んだ石で、この周りにはお供えとして置かれたお茶碗などの焼き物や鎌、それからお金などが散らばっていました。

焼き物には江戸時代に佐賀県でつくられた唐津焼、伊万里焼などのほか地元で焼いた土製のお皿(かわらけ)もみられます。またお金の多くは中央に穴の開いた寛永通宝で、お参りをしたときに置いたものなのでしょう。

さて、この石組の下を掘ってみると深さ〇.三メートル程度の、平面のかたちが正方形や長方形、中には円形をした穴があります。その中には、足をたてた状態の人骨が出てきました。穴の四隅から釘が出てくることから、お棺に入られて葬られたことがわかります。また人骨の間からはお金や煙管、木製の櫛などといった副葬品が出土しました。



鳥取県埋蔵文化財センター名和調査事務所
〒689-3205 西伯郡大山町西坪字中松堀 179-5
電話 0859-54-2671

このように一ヶ所から百基以上の墓がまとまって見つかる例は県内だけでなく、山陰地方においても非常に珍しい調査です。さらに四百年にわたってお墓がつくられており、時代によってお墓のかたちやお供えされるもの(焼き物やお金など)、人の葬り方などの変化の様子が分かる点で、貴重なものといえるでしょう。また人骨についても専門家の方に鑑定をお願いし、様々な分析をしていく予定です。

今後の調査によって、今まであまりわかっていなかった室町時代～江戸時代にかけての人々の様子が、明らかになっていくことが期待されます。

今回の調査成果については十一月初旬に、隣接して調査を行っている門前上屋敷遺跡・門前鎮守山城跡とともに現地説明会を行う予定にしております。いずれの遺跡もかなり調査が進展し、さまざまな成果が得られています。多くの方々のご来場をお待ちしております。